

## 特集 アンケート調査のやり方①

— 調査の計画から実施まで —

皆さん、学びあってるか〜い！ そして、やればできるぞー！ 今回はアンケート調査の特集第1段です。アンケートは馴染みのある手法ですが、「研究」と呼べるレベルで実施するのはかなり難しいのです。実施の仕方によって結果が大きく変わってしまうものだからです。研究データとして使えるレベルのアンケート結果を得るためには、どのようなことに気をつけなければならないのでしょうか。今回はアンケート調査の計画から実施までの手順をひとつひとつ解説していきたいと思います。研究はデータが命。是非この特集記事を参考にして、質の高い研究を目指しましょう！ やればできるぞー！

### 1 調査課題をはっきりさせよう！

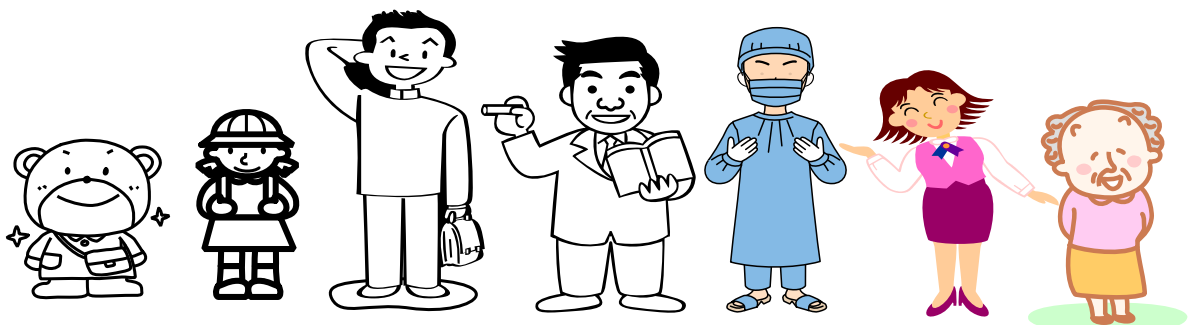
まず、調査によって何を明らかにしたいのかをはっきりさせましょう。課題が不明瞭なままでは妥当な調査はできません。どんな人を調査対象に選ぶのか、作成した質問紙は調べたいことを調べるのに適切かどうか、調査方法（手法、時期、回収方法）はどのようなのがよいか、などを判断するためには、調査課題が明確である必要があるのです。

### 2 調査対象者を定義しよう！

調査にあたっては、**どんな条件を満たす人たちを調査対象にすべきか**をよく検討しましょう。自分たちの調査の妥当性を説明するためには、調査対象をしっかりと定義しておくことが必要です。年齢や性別、職業や生活水準、その他様々な要素が回答に影響を与えます。

釜石高校のこれまでの課題研究でよくあったケースは、釜高生を調査対象にしたものでした。アンケートを実施した研究班に、調査対象を釜高生にした理由を尋ねてみたところ、「調査しやすいから」という答えが返ってきました。釜高生のことを研究したいなら、釜高生を調査対象にするのは当然のことです。しかし、広く一般に当てはまる法則を導き出したいなら、釜高生だけを調査対象にすることはできません。データに偏りが出る可能性が高いからです。釜高生を例に考えてみても、質問項目によっては、文系の生徒と理系の生徒、運動部の生徒と文化部の生徒、釜石に住んでいる生徒と釜石以外に住んでいる生徒では、回答に違いが出そうではありませんか？

したがって、調査対象者をしっかりと定義しておくことは調査の妥当性を説明するために必要不可欠なのです。「調査しやすいから」では説明になりません。



これらの人々(?)は、同列に扱うべきか、分けて考えるべきか・・・。

### 3 調査方法（手法、時期、回収方法）を検討しよう！

アンケート調査というと、質問紙による調査を思い浮かべる人が多いと思いますが、最近ではウェブアンケートもよく実施されるようになりました。また、面接して聞き取る形式で行われる調査もあります。それぞれに一長一短がありますので、どの方法を用いるのがよいか、よく検討する必要があります。

併せて、アンケートの依頼からデータの回収、分析、ポスター作成という流れから逆算して、いつ頃に、どの程度の期間を設けて実施するのか、どのように回収するのかなども考えておくべきでしょう。

### 4 標本数を決めよう！

これはなかなか難しい問題です。条件を満たす調査対象者全員から回答を得るの（全数調査）が一番正確なのは言うまでもありません。しかし、それはなかなか大変なことです。そこで、一般的には標本調査をおこないます。条件を満たす調査対象者を、**自然な分布と偏りがでないように配慮して**一定数選び（これを標本と言います）、その人たちに調査を実施します。この場合、全数調査ではないので、調査結果が全体の傾向を示しているかどうか、統計検定等の手法を使って、数学的に検討する必要があります（次々回で特集します）。

妥当な統計検定をおこなうためには、最低限必要な標本数があります（下表1参照）。

表1：統計検定を行う標本調査に必要な標本数

標本調査のケース	標本数
1つの集団の特徴を調べる場合	集団全体で500程度 ※ 数が減ると誤差が大きくなる。
クロス集計をおこなう場合 (例) 男女別に高校1年から3年まで学年別で比較する場合は 2 × 3 = 6 グループ	グループ毎に30以上 ※ 左の例だと6×30人

### 5 調査票を作成しよう！

質問紙を使う場合を例に解説します。質問紙は下表（表2）のように3つの構成で作成します。それぞれのポイントも表に記載しましたので、確認してください。

表2：質問紙の構成とポイント

構成	注意すべきポイント
調査協力依頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 調査の趣旨を説明し、調査協力を求める。</li> <li>● 個人情報の取扱いや質問紙の回収方法についても説明する。</li> </ul>
質問本体	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 答えやすい質問からはじめる。質問の順序はよく整理しておく。</li> <li>● わかりやすく、答えやすい表現で質問する。</li> <li>● 人によって受け止め方が異なる表現は避ける。(例: ×最近→○過去1ヶ月)</li> <li>● 質問のタイプを検討する(選択肢型にするか、自由記述型にするか)。</li> <li>● ひとつの質問で複数のことを聞かない。(例: 味と値段をどう思うか)</li> <li>● 誘導的な聞き方をしない。(例: ○○が流行っているが、どう思うか)</li> <li>● 選択肢は偏りの無いようにする。(例: 大変良い、まあまあ良い、悪い)</li> <li>● 前の質問が、次の質問に影響しないようにする。</li> </ul>
対象者属性	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 氏名、性別、年齢、職業等、回答者本人に関する情報。最後に回答してもらおうのが一般的。</li> <li>● データを属性別に比較する際に必要となる。聞く属性を検討しておく。</li> </ul>

### 6 一度、予備調査（プリテスト）を試みよう！

調査票ができあがったらクラスやゼミなどのメンバーにお願いして、うまくいくか試してみよう。回答者が質問の意味を誤解してしまったり、期待する質の回答が得られなかったりと、最初のアンケートはうまくいかないものです。ですから、一度質問紙を試してみて、不具合を修正しておくことが成功への秘訣です。何事も準備は万全に！